

いわき市動物の愛護及び管理に関する条例（動物愛護管理条例）【抜粋】

（平成 11 年 12 月 24 日市条例第 32 号）

（目的）

第 1 条 この条例は、動物の愛護及び管理に関し必要な事項を定めることにより、市民の**動物愛護の精神の高揚**を図るとともに、**動物による人の生命及び財産に対する侵害を防止**することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 動物 人の飼養又は保管（以下「飼養」という。）する動物で、ほ乳類、鳥類及びは虫類にぞくするものをいう。
- (2) 飼い主 動物の所有者（所有者以外の者が飼養する場合は、その者を含む。）をいう。
- (3) 施設 動物を飼養するための工作物をいう。

（市の責務）

第 3 条 市は、動物の愛護及び管理に関する法律（以下「法」という。）及びこの条例の目的を達成するため、**必要な施策を講ずるよう努めるものとする。**

（市民の責務）

第 4 条 市民は、**動物の愛護に努めるとともに、市が法及びこの条例に基づいて行う施策に協力するよう努めなければならない。**

（飼い主の責務）

第 5 条 飼い主は、その飼養する動物の本能、習性等を理解するとともに、飼い主としての責任を十分に自覚し、**動物を適正に飼養するよう努めなければならない。**

2 飼い主は、動物を**終生飼養するよう努めなければならない。**

（飼い主の遵守事項）

第 6 条 飼い主は、**動物を適正に飼養**するため、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 動物の種類及び発育状況に応じて、適正に飼料及び水を与えること。
- (2) 動物の疾病及び負傷の予防を図ることにより、その健康及び安全を保持すること。
- (3) 動物の種類、健康状態等に応じて、適正に運動させること。
- (4) 動物の種類、習性等に応じた施設を設けること。
- (5) 汚物及び汚水を適正に処理することにより、施設及びその周辺を清潔にし、悪臭又は昆虫等の発生を防止すること。
- (6) 動物が公共の場所並びに他人の土地及び物件を不潔にし、又は損傷することのないように飼養すること。
- (7) 動物の鳴き声、動物から飛散する羽毛等により人に迷惑をかけないように飼養すること。

(犬の飼い主の責務)

第7条 犬の飼い主は、その飼養する犬を**けい留**(人の生命、身体又は財産に害を加えるおそれがないように丈夫な綱、鎖等でつなぎ、又はおりに入れる等の措置をとることをいう。以下同じ。)しておかなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、この限りでない。

- (1) 住居その他の建物の内部又は堅固な塀、さく等で囲まれた場所において、人の生命、身体又は財産に害を加えるおそれがない方法で犬を飼養する場合
- (2) 生後90日以内の犬を飼養する場合
- (3) 警察犬、狩猟犬又は身体障害者補助犬をその目的のために使用する場合
- (4) 犬を制御できる者が、人の生命、身体又は財産に害を加えるおそれのない場所又は方法で犬を訓練する場合
- (5) 犬を制御できる者が、犬を綱、鎖等でつなぎ、移動させ、又は運動させる場合
- (6) 前各号に掲げる場合のほか、規則で定める場合  
〔市動物の愛護及び管理に関する規則第2条(けい留義務の特例):犬を制御できる者が荷車、そり等をけん引させる目的で犬を使用する場合〕

(野犬等の収容)

第10条 市長は、その職員をして、**野犬等**(飼い主のいない犬及び第7条の規定に違反してけい留されていない犬をいう。)を**収容**させることができる。

## 狂犬病予防法【抜粋】

(昭和25年8月26日法律第247号)

(最終改正:平成26年6月13日法律第69号)

(目的)

第1条 この法律は、狂犬病の発生を予防し、そのまん延を防止し、及びこれを撲滅することにより、**公衆衛生の向上及び公共の福祉の増進**を図ることを目的とする。

(適用範囲)

第2条 この法律は、次に掲げる動物の狂犬病に限りこれを適用する。ただし、第2号に掲げる動物の狂犬病については、この法律の規定中第7条から第9条まで、第11条、第12条及び第14条の規定並びにこれらの規定に係る第4章及び第5章の規定に限りこれを適用する。

① **犬**

② **猫**その他の動物(牛、馬、めん羊、豚、鳥及びあひる)であつて、狂犬病を人に感染させるおそれが高いものとして政令で定めるもの  
(狂犬病予防法施行令第1条:猫、あらいぐま、きつね及びスカンク)